

坂城町埋蔵文化財調査報告書第29集

坂城町内遺跡発掘調査報告書2006

—平成18年度試掘・立会い調査報告書—

2007.3

坂城町教育委員会

坂城町内遺跡発掘調査報告書2006

—平成18年度試掘・立会い調査報告書—

2007.3

坂城町教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成18年度の町内遺跡の試掘調査及び立会い調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助金及び町費にて対応した。
- 3 調査の体制
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）
担 当 者 助川 朋広、時信 武史（坂城町教育委員会学芸員）
協 力 者 朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、田中 浩江、萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成
教 育 長 柳澤 哲
生涯学習課長 塚田 好一
文化財係長 助川 朋広（前出）
文 化 財 係 時信 武史（前出）
朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、田中 浩江、千野 美樹、中沢あつみ、萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は助川・時信が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。
- 3 報告書抄録に記載された北緯・東経の座標値については、平成14年4月1日から施行された測量法改正に伴う、世界測地系に基づいた数値を記載した。

目 次

例 言

凡 例

第Ⅰ章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 試掘調査の結果	6
1 出浦遺跡 2	6
2 御堂川古墳群 山田支群 1	8
3 田町遺跡群 6	10
4 宮上遺跡 2	12
5 四ツ屋遺跡群11	13
6 宮上遺跡 3	15
7 町横尾遺跡Ⅱ	16
8 上五明条里水田址17	18
9 村上氏城館跡Ⅰ	20
10 日名沢遺跡群 1	22
11 込山遺跡群 1	24
12 日名沢遺跡群 2	26
13 南条遺跡群 5	28
第Ⅲ章 立会い調査の結果	29

報告書抄録

第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境

第 1 節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第 2 節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は 3、4 ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押形文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押形文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再埋葬が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林 1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上

地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡（1-8）が注目される。青木下遺跡は現在整理中である。奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開畝遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡があるが城自体は現存していない。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林 1999）。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置づけられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1797）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献（五十音順・敬称略）

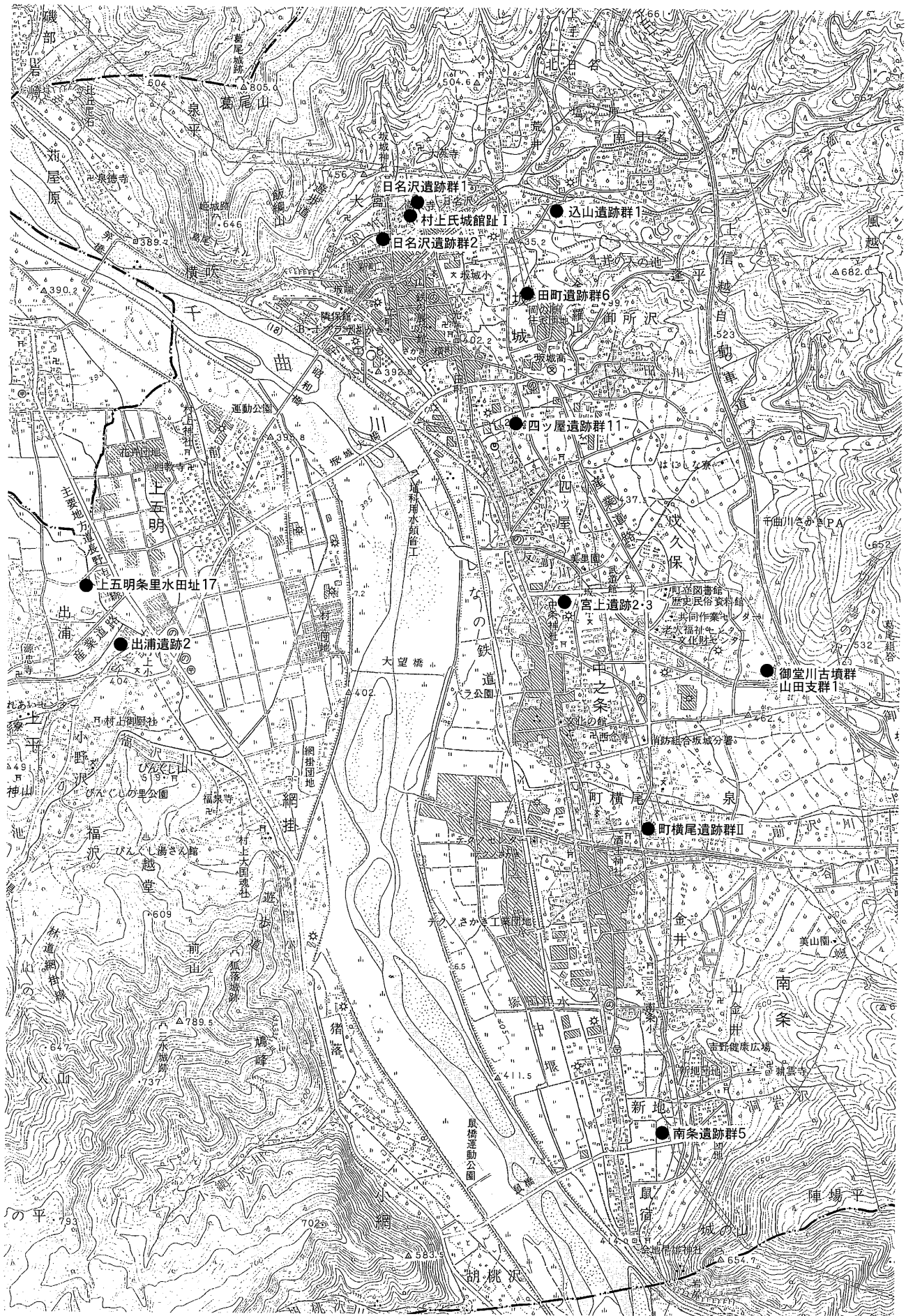
- 坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡―第1次調査報告』 1979『開畝製鉄遺跡―第2次調査報告』 1993『宮上遺跡Ⅱ』 1995『東裏遺跡』 1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺裏遺跡・東町遺跡』 1996『寺浦遺跡Ⅱ』 2000『開畝遺跡Ⅲ』 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 2002『保地遺跡Ⅱ』
- 関 孝一 1966「長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報」『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森嶋 稔ほか 1981『坂城町史』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998「第5節 開畝遺跡」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』（財）長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999「第9章 東平古墳群」「第11章 観音平経塚」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埋蔵文化財センター



坂城町遺跡分布図

図面番号	遺跡名	種別	時代
1	南条遺跡群	集落址	弥生~平安
-1	南条遺跡群 東裏遺跡	集落址	弥生~平安
-2	南条遺跡群 御殿裏遺跡(鼠宿)	集落址	弥生~平安
-3	南条遺跡群 百々目利遺跡	集落址	弥生~平安
-4	南条遺跡群 中町遺跡(新地)	集落址	弥生~平安
-5	南条遺跡群 田町遺跡	集落址	弥生~平安
-6	南条遺跡群 廻り目遺跡	集落址	弥生~平安
-7	南条遺跡群 塚田遺跡(田端)	集落址	弥生~平安
-8	南条遺跡群 青木下遺跡	水田址、祭祀跡	弥生~平安
2	金井西遺跡群	集落址	縄文~平安
-1	金井西遺跡群 金井遺跡	集落址	縄文~平安
-2	金井西遺跡群 社宮神遺跡(金井西)	集落址	縄文~平安
-3	金井西遺跡群 並木下遺跡	集落址	縄文~平安
3	金井東遺跡群	集落址	縄文~平安
-1	金井東遺跡群 保地遺跡	集落址	縄文~平安
-2	金井東遺跡群 山金井遺跡	集落址	縄文~平安
-3	金井東遺跡群 大木久保遺跡(南条小学校敷地)	集落址	縄文~平安
-4	金井東遺跡群 酒玉遺跡	集落址	縄文~平安
4	栗ヶ谷古墳	古墳	古墳
5	社宮神経塚	経塚	中世
6	町横尾遺跡	散布地	縄文~平安
7	北畑古墳	古墳	古墳(後期)
8	中之条遺跡群	集落址	縄文~平安
-1	中之条遺跡群 寺浦遺跡	集落址	縄文~平安
-2	中之条遺跡群 上町遺跡	集落址	弥生~平安
-3	中之条遺跡群 東町遺跡	集落址	弥生~平安
-4	中之条遺跡群 北浦遺跡	集落址	縄文~平安
-5	中之条遺跡群 宮上遺跡	集落址	縄文~平安
-6	中之条遺跡群 北川原遺跡	集落址	縄文~平安
9	南条塚穴古墳(塚穴古墳)	古墳	古墳(後期)
10	谷川古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	谷川古墳群 入横尾支群 向田古墳	古墳	古墳(後期)
-2	谷川古墳群 入横尾支群 刈塚古墳	古墳	古墳(後期)
11	入横尾遺跡	散布地	平安
12	谷川古墳群 上原支群	古墳	古墳(後期)
13	前原墳墓群	墳墓	中世~近世
14	御堂川古墳群 山口支群	古墳	古墳(後期)
15	山崎遺跡	散布地	縄文
16	御堂川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)
17	御堂川古墳群 前山支群	古墳	古墳(後期)
-1	御堂川古墳群 前山1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	御堂川古墳群 前山2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	御堂川古墳群 前山3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	御堂川古墳群 前山4号墳	古墳	古墳(後期)
-5	御堂川古墳群 前山5号墳	古墳	古墳(後期)
-6	御堂川古墳群 前山6号墳	古墳	古墳(後期)
-7	御堂川古墳群 前山7号墳	古墳	古墳(後期)
-8	御堂川古墳群 前山8号墳	古墳	古墳(後期)
-9	御堂川古墳群 前山9号墳	古墳	古墳(後期)
-10	御堂川古墳群 前山10号墳	古墳	古墳(後期)
-11	御堂川古墳群 前山11号墳	古墳	古墳(後期)
-12	御堂川古墳群 前山12号墳	古墳	古墳(後期)
-13	御堂川古墳群 前山13号墳	古墳	古墳(後期)
-14	御堂川古墳群 前山14号墳	古墳	古墳(後期)
18	御堂川古墳群 東平支群 二塚古墳	古墳	古墳(後期)
19	御堂川古墳群 山田支群	古墳	古墳(後期)
20	鏡鏡堂遺跡(山崎北遺跡)	集落址	縄文~弥生
21	開飲遺跡	集落址	弥生~平安
22	人塚古墳	古墳	古墳(後期)
23	四ノ屋遺跡群	集落址	縄文~平安
24	成久保遺跡	集落址	古墳~平安
25	入田遺跡	散布地	奈良~平安
26	塚内古墳(御所沢古墳)	古墳	古墳(後期)
27	金比羅山遺跡	散布地	縄文~平安
28	蓬平経塚	経塚	中世
29	岡の原遺跡	窯跡	平安
30	込山遺跡群	集落址	縄文~平安
-1	込山遺跡群 込山A遺跡(水上)	集落址	縄文~平安
-2	込山遺跡群 込山B遺跡(社宮神)	集落址	縄文~平安
-3	込山遺跡群 込山C遺跡(込山)	集落址	縄文~平安
-4	込山遺跡群 込山D遺跡(横町)	集落址	縄文~平安
-5	込山遺跡群 込山E遺跡(立町)	集落址	縄文~平安
31	日名沢遺跡群	集落址	弥生~平安
-1	日名沢遺跡群 日名沢遺跡	集落址	弥生~平安
-2	日名沢遺跡群 丸山遺跡	集落址	弥生~平安
32	土井ノ入窯跡	窯跡	奈良~平安
33	平林遺跡	散布地	縄文

図面番号	遺跡名	種別	時代
34	垣外窯跡	窯跡	平安
35	平沢遺跡	散布地	縄文
36	和平遺跡群	集落址、散布地	縄文~平安
-1	和平遺跡群 和平A遺跡	集落址	縄文~平安
-2	和平遺跡群 和平B遺跡	散布地	弥生
-3	和平遺跡群 和平C遺跡	散布地	平安
37	金比羅山古墳	古墳	古墳(後期)
38	村上氏館跡	城館跡	中世
39	馬の背遺跡	散布地	縄文
40	北日名経塚	経塚	中世
41	北日名塚穴古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	北日名塚穴1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	北日名塚穴2号墳	古墳	古墳(後期)
42	梅ノ木遺跡	散布地	縄文
43	栗田窯跡	窯跡	奈良
44	葛尾城跡	城館跡	中世
45	出浦沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	出浦沢古墳群 出浦支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	出浦沢古墳群 出浦支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	出浦沢古墳群 出浦支群3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	出浦沢古墳群 出浦支群4号墳	古墳	古墳(後期)
-5	出浦沢古墳群 出浦支群5号墳	古墳	古墳(後期)
-6	出浦沢古墳群 鳥支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-7	出浦沢古墳群 鳥支群2号墳	古墳	古墳(後期)
46	鳥遺跡	集落址	弥生~平安
47	福沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	福沢古墳群 小野沢支群1号墳(御厨社古墳)	古墳	古墳(後期)
-2	福沢古墳群 小野沢支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	福沢古墳群 小野沢支群3号墳(ヤックラ古墳)	古墳	古墳(後期)
-4	福沢古墳群 小野沢支群4号墳	古墳	古墳(後期)
48	小野沢遺跡	集落址	弥生~平安
49	福沢古墳群 越堂支群	古墳	古墳(後期)
50	福泉寺裏古墳	古墳	古墳(後期)
51	狐落城跡	城館跡	中世
52	三水城跡	城館跡	中世
53	開飲製鉄遺跡	製鉄跡	中世
54	込山廃寺跡	寺院跡	平安
55	観音平経塚	経塚	中世
56	栗田小鍛冶跡	製鉄跡	中世
57	塚之原遺跡	集落址	奈良~平安
58	南日名遺跡	集落址	弥生~平安
59	葛尾城根小屋跡	城館跡	中世
60	城館跡	城館跡	中世
61	坂木代官所跡	屋敷跡	近世
62	御町遺跡群	散布地	古墳~平安
63	御所沢墳墓群	墳墓	中世
64	雷平窯跡	窯跡	平安
65	中之条石切場跡	採掘跡	近世
66	砥沢古墳	古墳	古墳(後期)
67	中之条代官所跡	屋敷跡	近世
68	町組窯跡	窯跡	平安
69	観音坂城跡	城館跡	中世
70	南狸の川遺跡(吉祥寺跡)	散布地寺院跡	奈良~中世
71	口留番所跡	屋敷跡	近世
72	和合城跡	城館跡	中世
73	高ツヤ城跡	城館跡	中世
74	虚空蔵山城跡	城館跡	中世
75	地獄沢黄鉄鉱採掘跡	採掘跡	近世
76	籾岩遺跡	散布地	平安
77	出浦城跡	城館跡	中世
78	上五明条里水田址	水田址	平安~近世
79	出浦遺跡	集落址	縄文~平安
80	村上氏館跡	城館跡	中世
81	福沢氏居館跡	城館跡	中世
82	小野沢窯跡	窯跡	奈良~平安
83	福沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	福沢古墳群 五狭支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	福沢古墳群 五狭支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	福沢古墳群 五狭支群3号墳	古墳	古墳(後期)
84	荒宿遺跡	集落址	縄文~平安
85	綱掛原遺跡	集落址	縄文~平安
86	祭祀跡	祭祀跡	平安
87	島黄銅鉱採掘跡	採掘跡	近代
88	島マンガン鉱採掘跡	採掘跡	近代
89	上平黄銅鉱採掘跡	採掘跡	近代
90	横吹北国街道跡	街道跡	近世



試掘調査位置図 (1:25,000)

第Ⅱ章 試掘調査の結果

1 ^{いでうらいせき} 出浦遺跡 2

所在地 坂城町大字上平字小野沢
1436-62他
事業主体 デイリーフーズ株式会社
事業名 工場建設
調査期間 平成18年4月13日～
平成18年4月14日
面積 4,459.57㎡ (42㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

出浦遺跡は、坂城町の千曲川左岸である上平地区の出浦沢川によって形成された遺跡とされ、「坂城町遺跡分布図」によると、縄文時代～平安時代にかけての集落址とされている。本遺跡内では、平成17年度に試掘調査が行われたが、遺構・遺物は確認されなかった。

今回、デイリーフーズ株式会社による工場建設事業が計画され、遺跡の有無を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、北東方向に流下する出浦沢川右岸の微高地上に位置している。試掘トレンチは2箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物の検出はなく、地表下0.3～0.5mにて地山と思しき砂礫層を検出するにいった。



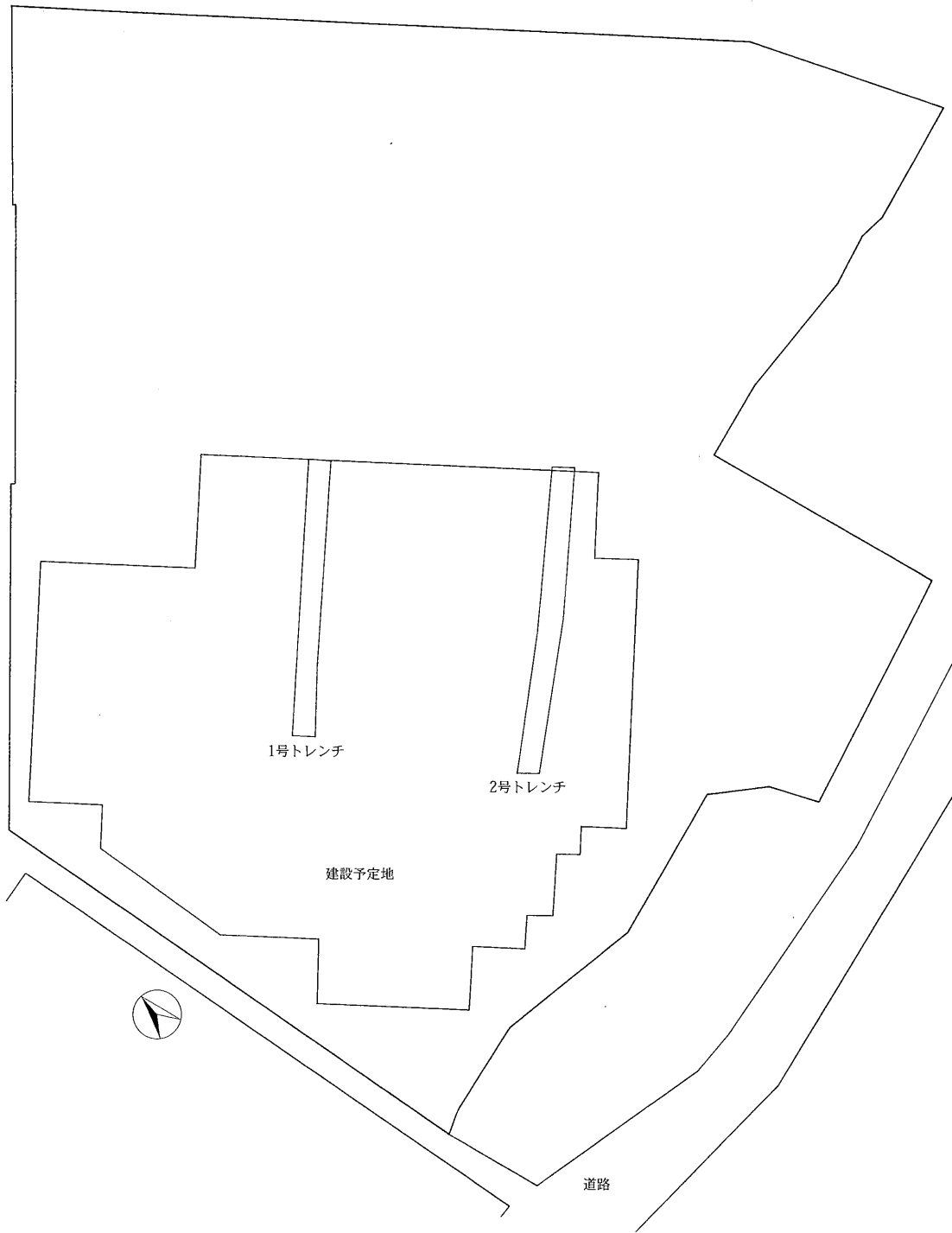
試掘調査位置図 (1 : 2500)



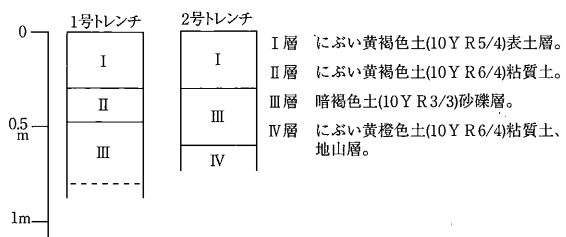
1号トレンチ検出状況 (北東より)



2号トレンチ検出状況 (北東より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 500)



基本層序模式図

2 御堂川古墳群 山田支群1

所在地 坂城町大字中之条字開畝2143-1 他
事業主体 中嶋登
事業名 集合住宅建設
調査期間 平成18年4月19日～
平成18年4月20日
面積 2945.32㎡ (106㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

御堂川古墳群は坂城町中之条の御堂川によって形成された扇状地の扇頂部付近に所在し、山口支群、山崎支群、前山支群、東平支群、山田支群に分けられている古墳群である。その中でも一番大きな支群が前山支群で、前山支群には現在14基の古墳の存在が確認されている。本古墳群は古墳時代後期に位置づけられると考えられているが、東平支群では上信越自動車道建設によって、(財)長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を行い、中期古墳が発見されていることも留意が必要な古墳群である。しかし、この発掘調査された東平古墳群は、位置的にも御堂川古墳群に入れることを含め、名称など再検討が必要な古墳である。

前山支群では昭和48・49年に『坂城町誌』の編纂にあたり前山1号墳の学術調査が実施され、6世紀後半から8世紀の遺物が出土している。これらの状況から何度かにわたって追葬が実施されたと考えられている。また、葛尾組合の敷地造成によって消滅してしまったが、前山4号墳からは、鉄製の直刀が出土している。

「坂城町遺跡分布図」によると、山田支群は御堂川古墳群の西端に位置している。古墳群と称されてはいるものの、マウンドや石室などの痕跡は確認できない。

今回、中嶋登氏による集合住宅建設事業が



試掘調査位置図 (1:2500)



1号トレンチ掘削状況 (北より)



1号トレンチ検出状況 (北より)

計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。

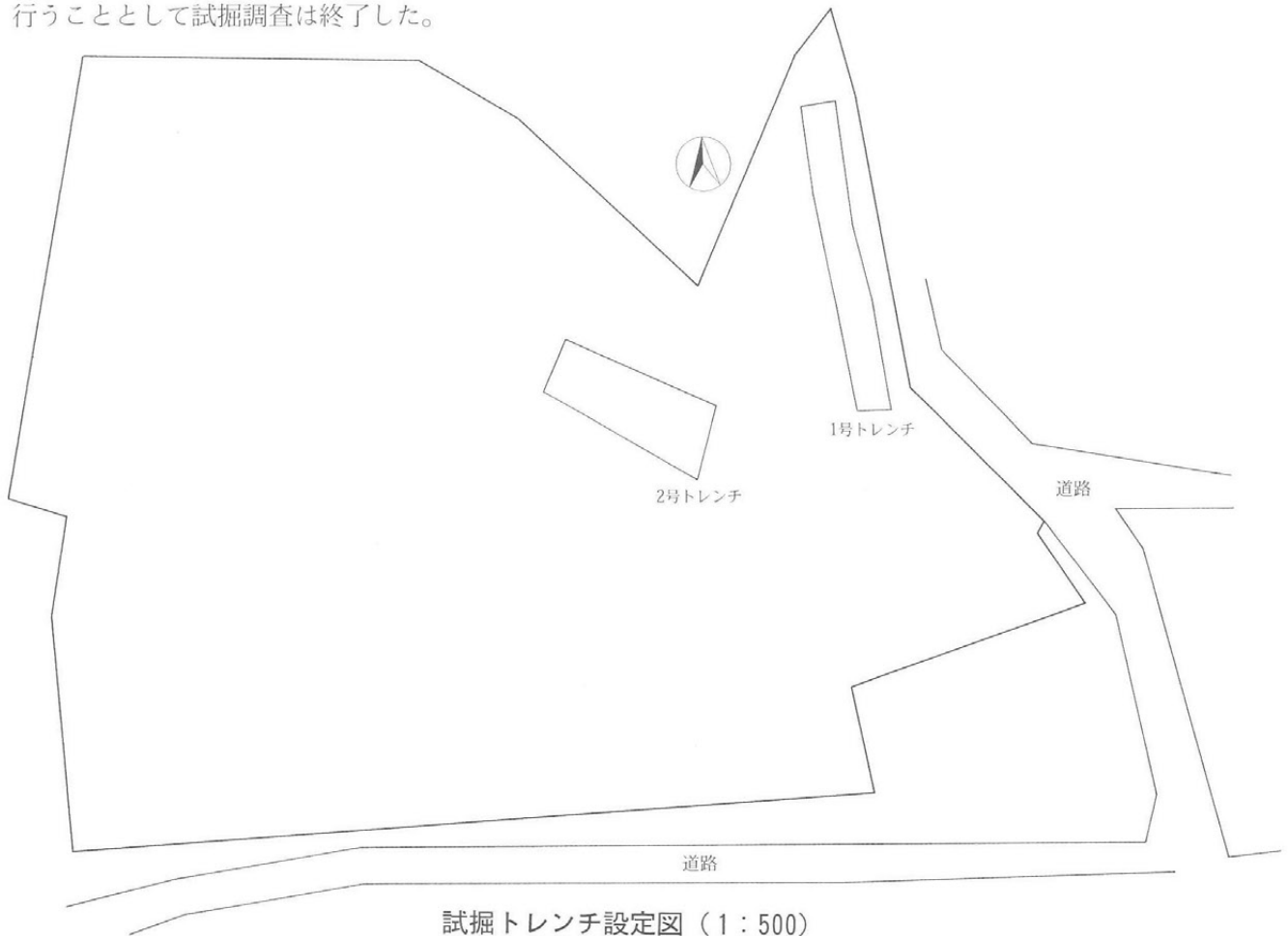
調査の成果

今回の計画地は、西に流下する御堂川右岸の微高地上に位置している。試掘トレンチは2箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺物・遺構の検出はなく、地表下約0.3mにて地山を検出するにいたった。開発面積に対し調査範囲が狭かったこともあり、集合住宅建設にかかる掘削工事に際し、立会い調査を行うこととして試掘調査は終了した。



2号トレンチ検出状況（南東より）



試掘トレンチ設定図（1：500）

1号トレンチ	2号トレンチ	層	説明
I	I	I層	褐色土(10Y R4/6)粘質土、表土層。
II		II層	褐色土(10Y R4/6)粘質土、自然堆積層。
III-1		III層-1	黄褐色土(10Y R5/6)粘質土、自然堆積層。
III-2		III層-2	褐色土(10Y R4/4)粘質土、自然堆積層。
III-3		III層-3	にぶい黄褐色土(10Y R5/4)粘質土、自然堆積層。
IV		IV層	黒褐色土(10Y R3/2)腐植層。
V		V層	黒色土(10Y R2/1)砂礫層。
	VI	VI層	黄褐色土(10Y R5/6)砂礫層。

基本層序模式図

3 田町遺跡群 6

所在地 坂城町大字坂城5819
事業主体 宮沢哲男
事業名 集合住宅建設
調査期間 平成18年4月24日～
平成18年4月25日
面積 816㎡ (137㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

田町遺跡群は坂城町坂城に所在し、標高約430mを測る緩やかな尾根上に位置する。

「坂城町遺跡分布図」によると古墳～平安時代の散布地とされ、過去に数回試掘調査が実施されている。平成6・7年度は、住宅団地建設事業、平成10年度は宅地造成、平成12年度は宅地造成事業によって、それぞれ試掘調査を行ったが、平成6年度調査地点から遺物が出土した以外は、遺構・遺物の検出がなく、遺跡の状態は判然としない。

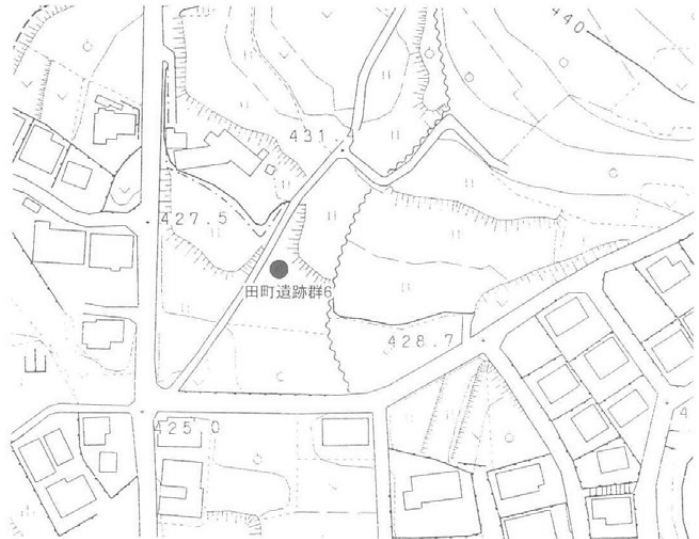
今回、宮沢哲男氏による集合住宅建設事業が計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、南西方向にのびる尾根の中央付近に位置している。試掘トレンチは2箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、地表下約0.4mの黄褐色粘質土層上面において縄文時代の所産と思われる住居址1棟、時期不明の土坑3基が検出された。このほか、明瞭なプランは確認できなかったが、住居址覆土を掘り込んで、古墳時代の甕が逆位に埋設されているのが発見された。

今回の調査により、遺構・遺物数は少ないながらも田町遺跡群において縄文時代以降の営みの痕跡が確認されるに至った。



試掘調査位置図 (1:2500)



1号トレンチ検出状況 (北東より)

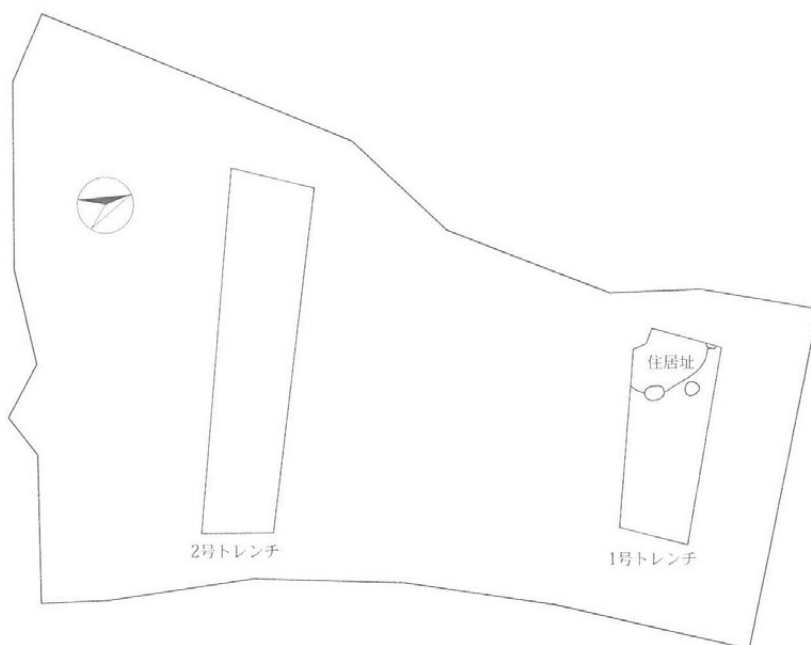


1号トレンチ検出状況 (北東より)

今回の調査で確認された遺構は、町道から住宅駐車場にいたるスロープを造成するために削平を計画している部分で検出された。このため事業主体との協議の結果、進入路幅を狭くすることで遺構を保護することとして調査を終了した。



2号トレンチ検出状況（西より）



試掘トレンチ設定図（1：400）

1号トレンチ		2号トレンチ	
0	I	I 層	灰黄褐色土(10Y R 5/2)粘質土、水田耕作層。
	III	II 層	褐色土(10Y R 4/4)粘質土、水田床土層。
0.5 m	IV	III 層	褐色土(10Y R 4/6)粘質土、水田耕作の影響を受けた層。
	VI	IV 層	黄褐色土(10Y R 5/6)粘質土、地山層。
		V 層	褐色土(10Y R 4/6)粘質土、地山層。
		VI 層	黄褐色土(10Y R 5/8)クレサ礫を多く含む、地山層。

基本層序模式図

4 宮上遺跡 2

所在地 坂城町大字中之条900-1
 事業主体 株式会社 桜井製作所
 事業名 駐車場造成
 調査期間 平成18年5月16日～
 平成18年5月17日
 面積 189㎡ (62㎡)
 担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

宮上遺跡は、坂城町大字中之条に位置する弥生時代から平安時代の集落址とされる遺跡である。坂城町の千曲川右岸に位置する中之条地区に所在し、御堂川によって形成された標高約400mを測る扇状地の扇央付近の堆積斜面に位置している。

同遺跡では平成3年度以降に坂城中学校改築事業にともない発掘調査が実施され、竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑址が数多く検出されたほか、土器類が多く出土した。ことに古代に属する遺構と遺物は顕著で、当該期の集落址が広がっていることが確認されている。

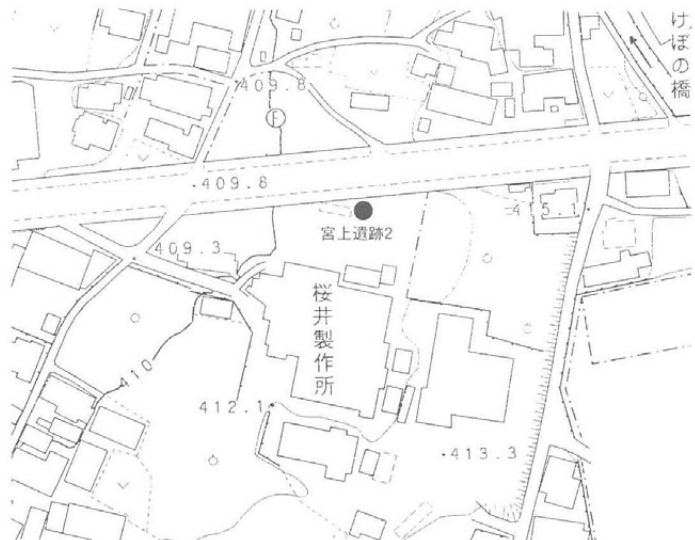
今回、株式会社桜井製作所による駐車場造成事業が計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、西方向に広がる扇状地の扇央付近に位置している。試掘トレンチは1箇所設定し、遺構の有無を確認した。

調査の結果、地表下約0.4mで黒褐色の遺物包含層が、その直下（地表下約0.9m）において褐色粘質土層が検出され、この上面において時期不明の掘り込みが複数検出された。

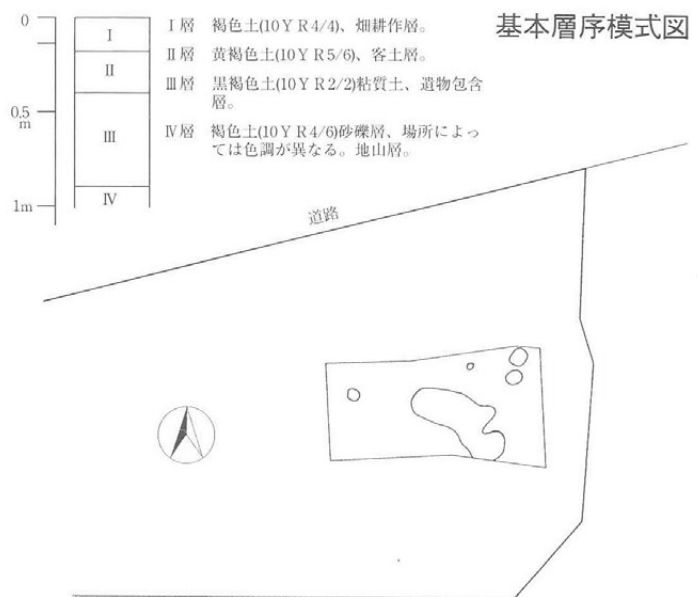
今回の駐車場造成事業では、周辺のレベルに合わせて造成を行う計画であるので、盛土保存ということで、遺跡を保護する事となった。



試掘調査位置図 (1:2500)



トレンチ検出状況 (東より)



試掘トレンチ設定図 (1:400)

5 よつや いせきぐん 四ツ屋遺跡群11

所在地 坂城町大字坂城字上中道6672～
下山王6700-2

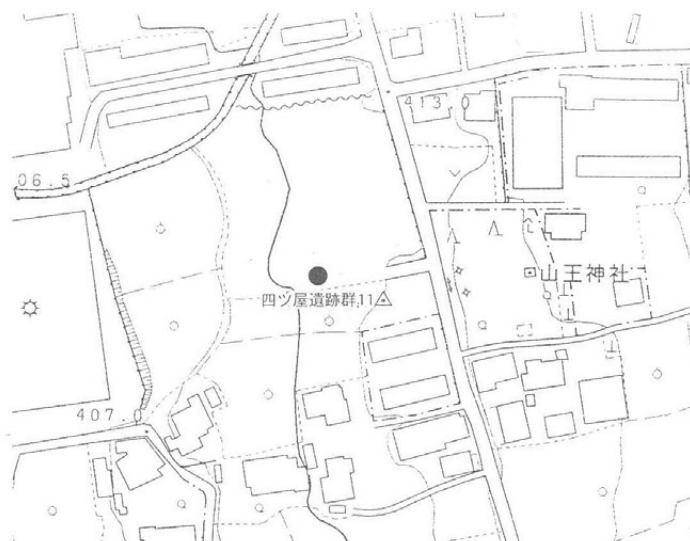
事業主体 坂城町建設課

事業名 道路改良事業

調査期間 平成18年5月16日～
平成18年5月17日

面積 1255㎡ (62㎡)

担当者 助川 朋広



試掘調査位置図 (1:2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

四ツ屋遺跡群は、「坂城町遺跡分布図」によると坂城地区の四ツ屋、御所沢に広がる縄文時代から平安時代の集落址とされる遺跡である。本遺跡群は御堂川や入田川によって形成された扇状地の扇中央部及び扇端部に立地している。

本遺跡群内には今までに宅地造成や集合住宅建設に伴う合計10回の試掘調査が実施されている。

今までの試掘調査の成果の概要を示しておきたい。平成10年度に実施した宅地造成に伴う試掘調査では、遺物包含層から磨耗の著しい縄文土器片が僅少量出土し、縄文時代の遺跡がより高い場所(東側)に想定された。平成13年度実施された福祉施設建設に伴う試掘調査では、遺構及び遺物の検出がなく、遺跡が存在していないことが判明した。平成13年度に実施したコミュニティ消防センター建設に伴う試掘調査では、時期不明の土器片が僅少量出土し、中世頃と考えられる石鉢の出土があり、遺物を包含する黒色土層が検出された。平成14年度の集合住宅建設に伴う試掘調査では、土坑址とピットの検出があり、僅少量の土器の出土があった。また、同年実施の集合住宅建設に伴う試掘調査では、掘立柱建物址とピットの検出があった。また、同年の店舗建設や農道建設に伴う試掘調査では、遺



1・2号トレンチ完掘状況 (東より)



3号トレンチ検出状況 (西より)

構・遺物の検出が見られなかった。平成15年度実施の集合住宅建設にかかる試掘調査では、竪穴住居址2棟、ピットの検出があった。平成16年度実施の集合住宅建設事業の試掘調査では、遺構・遺物の出土が見られなかった。平成17年度実施のグループホーム建設に伴う試掘調査では既に造成が行われていたこともあってか遺構の検出にはいたらなかった。以上のとおり、本遺跡群は広範囲に広がる集落址とされているが、今まで行ってきた試掘調査によってもその様相は判然としない遺跡というのが実情である。

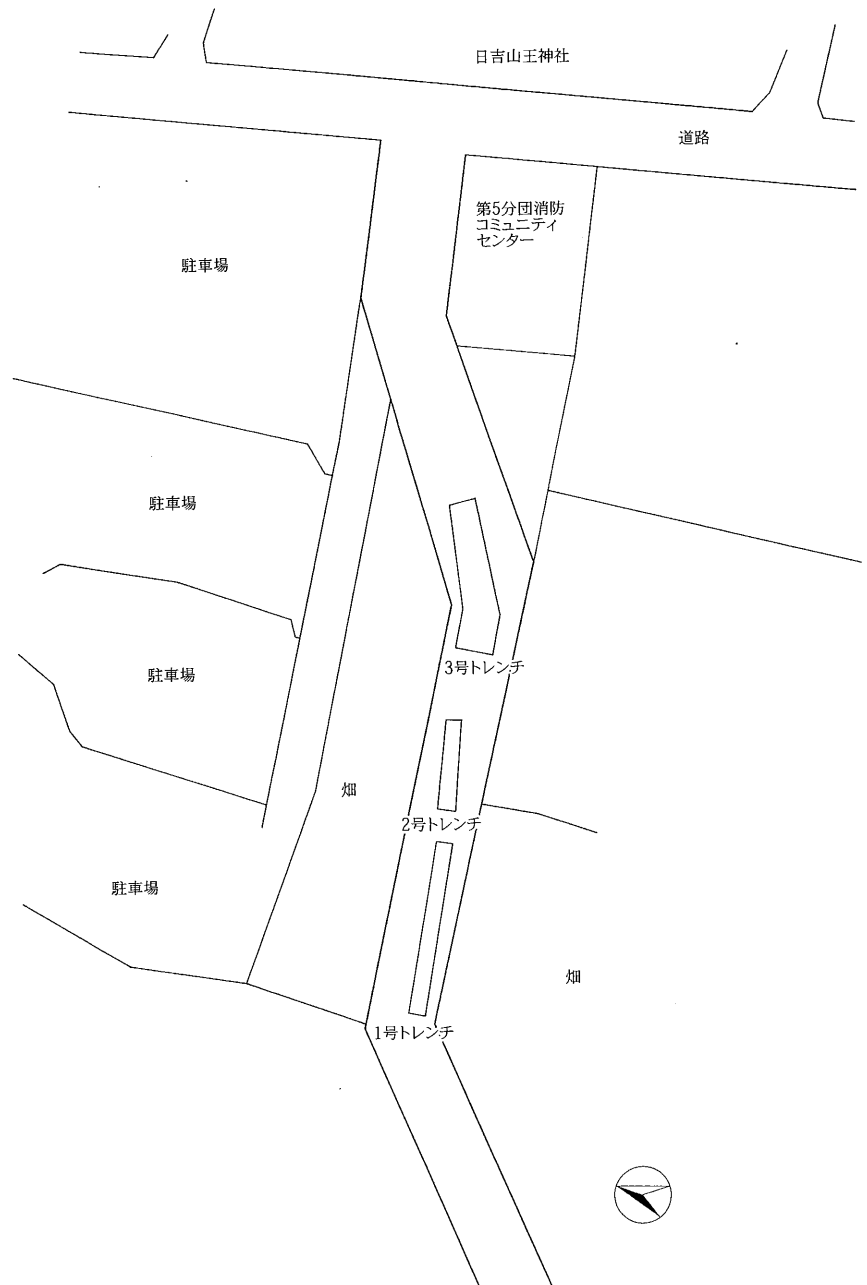
今回、町道改良事業が計画されたため、試掘調査を実施して遺跡の有無について確認を行った。

調査の成果

今回の計画地は、西方向に開く扇状地上、入田川の流路近くに位置している。試掘トレンチは3箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、地表下約0.1~0.5mで中世以降と考えられる包含層が、地表下約0.6~1.2mで縄文時代以降と考えられる遺物包含層が検出された。

遺物包含層からはそれぞれ中世、縄文時代の土器片が僅少量出土しているが、遺構の検出には至らなかった。



試掘トレンチ設定図 (1:600)

	1号トレンチ	2号トレンチ	3号トレンチ	
0	I	I	I	I層 暗褐色土(10YR3/4)、畑耕作層。
0.5m	II-1	II-1	II-1	II-1層 暗褐色土(10YR3/4)炭化粒・土器破片を含む、耕作の影響を受けた中世以降の包含層。
	II-2	II-2	II-2	II-2層 暗褐色土(10YR4/4)炭化粒・土器破片を含む、中世以降の包含層。
1m	III	III	III	III層 暗褐色土(10YR3/3)粘質土、礫を多く含む、地山層。
	V	IV		IV層 濃い黄褐色土(10YR5/4)砂礫層、地山層。
1.5m	VI	V		V層 黒褐色土(10YR2/1)粘質土、縄文土器片を含む、縄文時代以降の包含層。
		VI		VI層 灰黄褐色(10YR5/2)クレサ礫を多く含む、地山層。

基本層序模式図

6 みやうえいせき 宮上遺跡 3

所在地 坂城町大字中之条902-1
 事業主体 (株) 桜井製作所
 事業名 倉庫建設
 調査期間 平成18年8月7日
 面積 160㎡ (32㎡)
 担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

宮上遺跡は、坂城町大字中之条に位置する弥生時代から平安時代の集落址とされる遺跡である。千曲川右岸を西流する御堂川によって形成された標高約400mを測る扇状地の扇中央付近の堆積斜面に位置している。

遺跡の概要は宮上遺跡5で触れたとおりである。

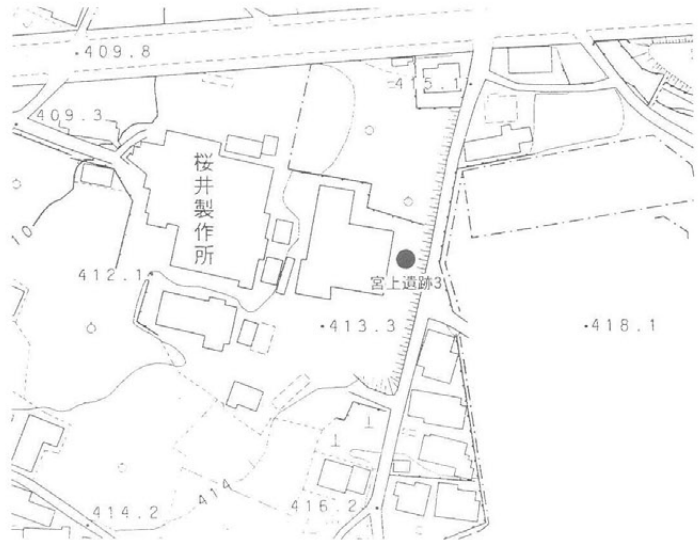
今回、株式会社桜井製作所による倉庫建設事業が計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、西方向に広がる扇状地の扇中央付近に位置している。試掘トレンチは事業計画地中央部に1箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、地表下約0.9mで黒褐色の遺物包含層が検出された。この包含層中からは多くの縄文時代中期の土器片が出土しており、調査地点直近ないしは直下に縄文時代中期の住居址の存在が予想できた。

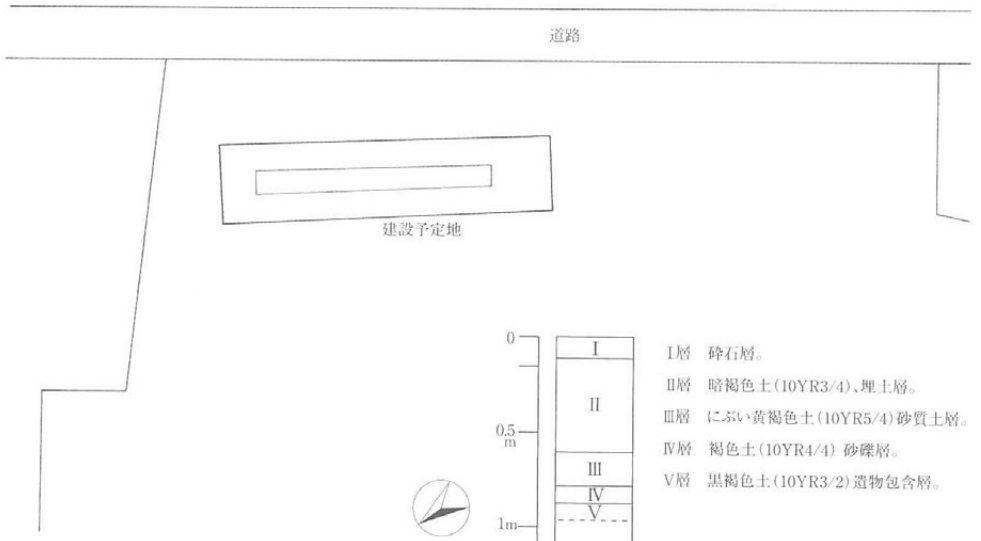
今回の倉庫建設事業では、地下に設置する基礎部分を浅くすることで遺構の保護が可能のため、事業主体と協議の結果、基礎部分の設計を変更することで遺構を保護することとして調査を終了した。



試掘調査位置図 (1 : 2500)



トレンチ検出状況 (南より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 600)

基本層序模式図

7 まちよこおいせき 町横尾遺跡Ⅱ

所在地 坂城町大字南条4682-2 他
事業主体 坂城町都市・下水道課
事業名 町道A01号線改良事業
調査期間 平成18年8月17日～
平成18年8月18日
面積 4,065.98㎡ (144㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

町横尾遺跡は坂城町大字南条に所在し、西方向に流下する谷川の扇状地の扇中央付近、標高約430m付近に位置する。「坂城町遺跡分布図」によると縄文～平安時代の集落址とされ、過去に数回試掘調査が実施されている。平成8年度は宅地造成事業、平成16年度は道路改良事業によって、それぞれ試掘調査を行ったが、平成8年度調査地点からは堅穴住居址や土坑が検出されている。

今回、坂城町都市・下水道課による町道改良事業が計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、南北に伸びる現町道の両側である。試掘トレンチはこの道路に沿う形で6箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、表土下約20～130cmのところから明黄褐色～褐色の土層が検出され、この層を確認面として遺構が検出された。以下、各トレンチの状況を概述する。

1号トレンチ：今回の試掘調査では北端に位置する。樹木移植に伴うと思しき攪乱が検出されたのみであった。

2号トレンチ：遺構は検出されなかった。

3号トレンチ：調査区南端から時期不明の住居址が一棟検出された。

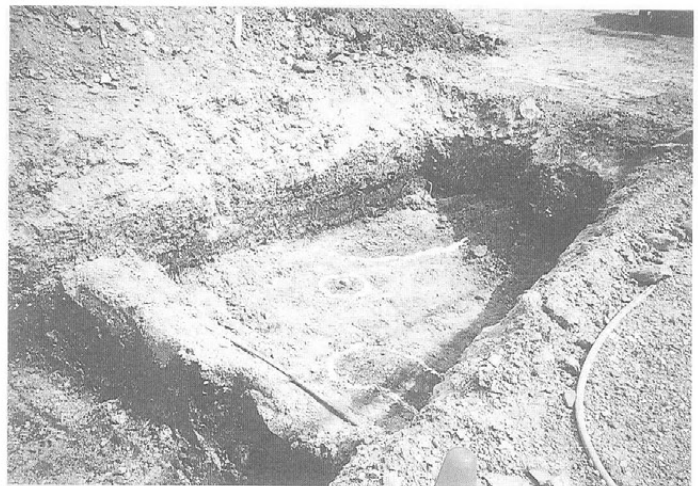
4号トレンチ：調査区北側から、平面形態が



試掘調査位置図 (1:2500)



4号トレンチ検出状況 (南より)



5号トレンチ検出状況 (北西より)

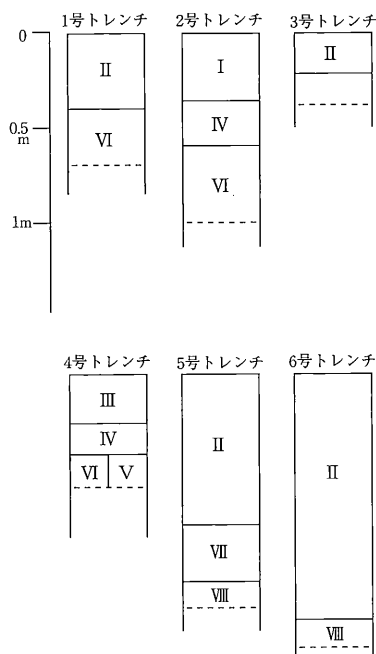
ややいびつであるが住居址と思われる掘り込みが一箇所、調査区南側からは奈良～平安時代の所産と思しき住居址が2棟、合計3棟分が検出された。このほか、土坑が4基検出された。

5号トレンチ：調査区南端から住居址が1棟、土坑が2基検出された。

6号トレンチ：今回の試掘調査では南端に位置する。遺構は検出されなかった。

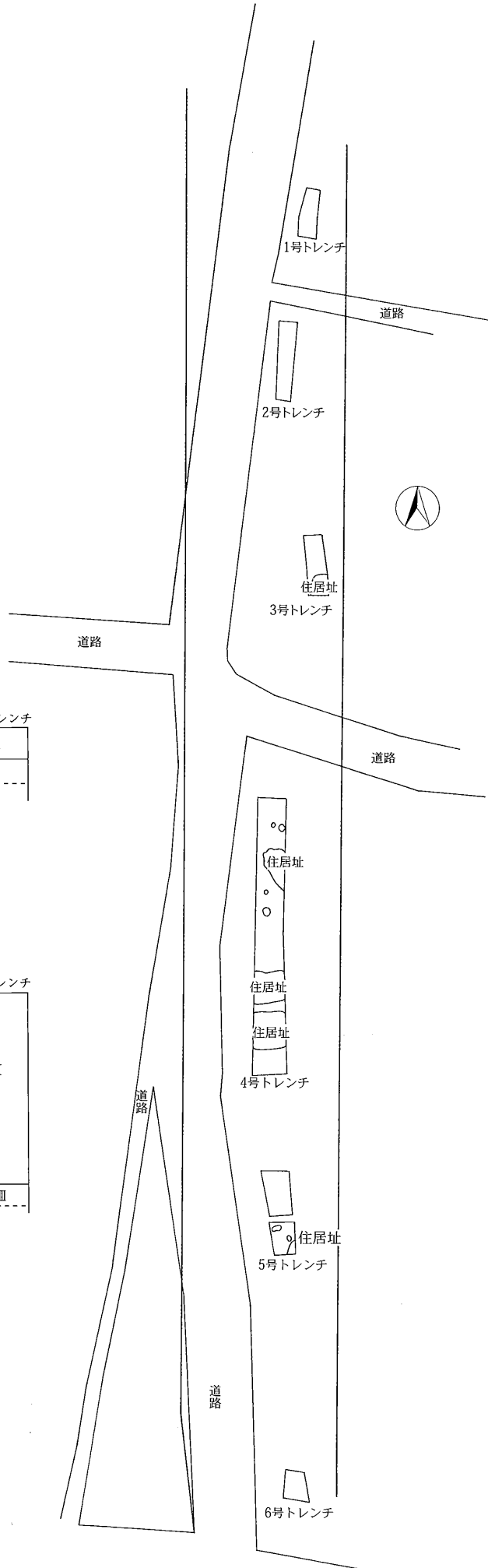
遺物は、縄文時代と古代の土器片が数点出土したほか、縄文時代と思われる石皿の残欠が出土した。

事業主体との協議の結果、歩道部分は盛土保存で、車道部分は記録保存という方針を策定し調査を終了した。



基本層序模式図

- I層 碎石、造成土層。
- II層 褐色土(10YR4/4)盛土層。
- III層 におい黄褐色土(10YR5/3)砂礫層、耕作土層。
- IV層 褐色土(10YR4/4)砂礫層。旧表土層。
- V層 暗褐色土(10YR3/4)砂礫層、炭化物・焼土粒を含む。住居址覆土層。
- VI層 明黄褐色土(10YR6/6)砂礫層。地山層。
- VII層 褐色土(10YR4/4)粘質層。堆積層。
- VIII層 におい黄褐色土(10YR5/4)砂礫層。地山層。



試掘トレンチ設定図 (1:600)

8 上五明条里水田址17

所在地 坂城町大字上平字出浦190-2
事業主体 株式会社竹内製作所
事業名 駐車場造成
調査期間 平成18年8月29日～
平成18年8月30日
面積 2,151㎡ (139㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は、坂城町の千曲川左岸の網掛、上五明、上平に所在する千曲川沖積地に所在する遺跡で、「坂城町遺跡分布図」によると平安時代～中世にかけての条里水田址に位置づけられている。しかし、近年の試掘調査及び発掘調査によって、上五明地区、上平地区には古代の集落址も検出され、生産遺跡といった性格以外に集落址も存在している事が判明している。

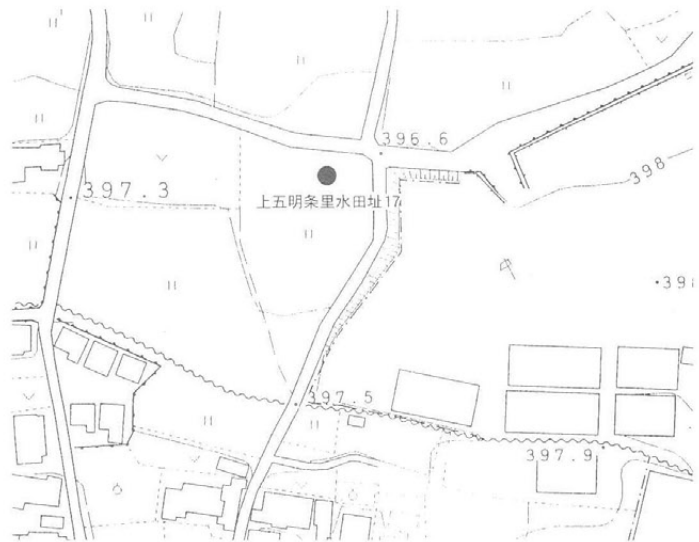
今回、本遺跡内において株式会社竹内製作所による駐車場の造成事業が計画されたことから、開発対象地内の遺跡の様相を確認するために試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の調査地点は、平成15年度に住居址等が検出された調査地点の南方約50mである。

開発対象地は水田として利用されていた場所で、トレンチを2箇所設定して掘り下げを行った。

調査の結果、地下2.5～3mまでは7～8面の水田層が確認できた。各層に属すると思われる遺物の欠如、仁和4年(888年)の「仁和の洪水」に伴うと思われる氾濫砂層が検出されなかったことなどから、水田層の時期を確定することは不可能であるが、後述する平安期の集落の検出面より上層であることから、平安期以降に水田耕作と千曲川氾濫に



試掘調査位置図 (1:2500)



1号トレンチ検出状況 (西より)



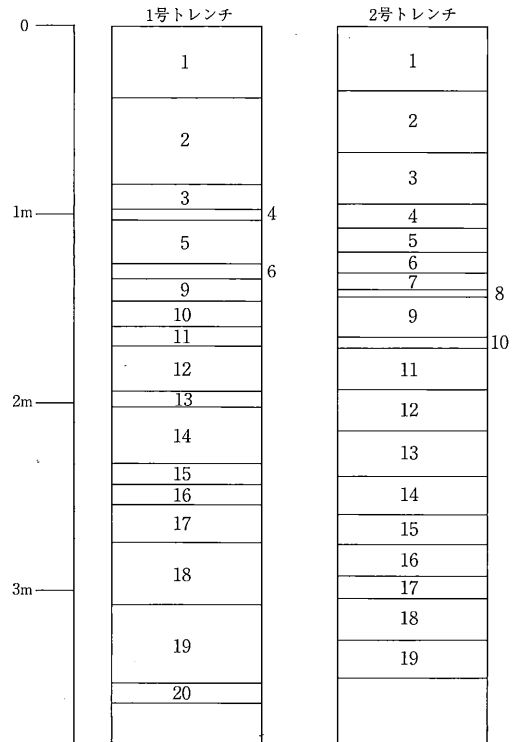
2号トレンチ検出状況 (南西より)

おける土被りを繰り返したと思われる。

水田層群の下からにぶい黄褐色のシルト層を検出し、この層を確認面とする遺構が検出された。1号トレンチからは遺構の検出はなかったが、2号トレンチからは住居址2棟、土坑1基が検出された。住居址①は土層断面の観察から、床面に赤褐色に被熱した炉状の施設が確認できた。また、住居址埋没過程で極薄い炭化物の層が形成されており、層中からは草本類の炭化物が出土している。木材の炭化物が見られないことから、住居址埋没過程において「野火」あるいは「野焼き」を経験した可能性が考えられる。

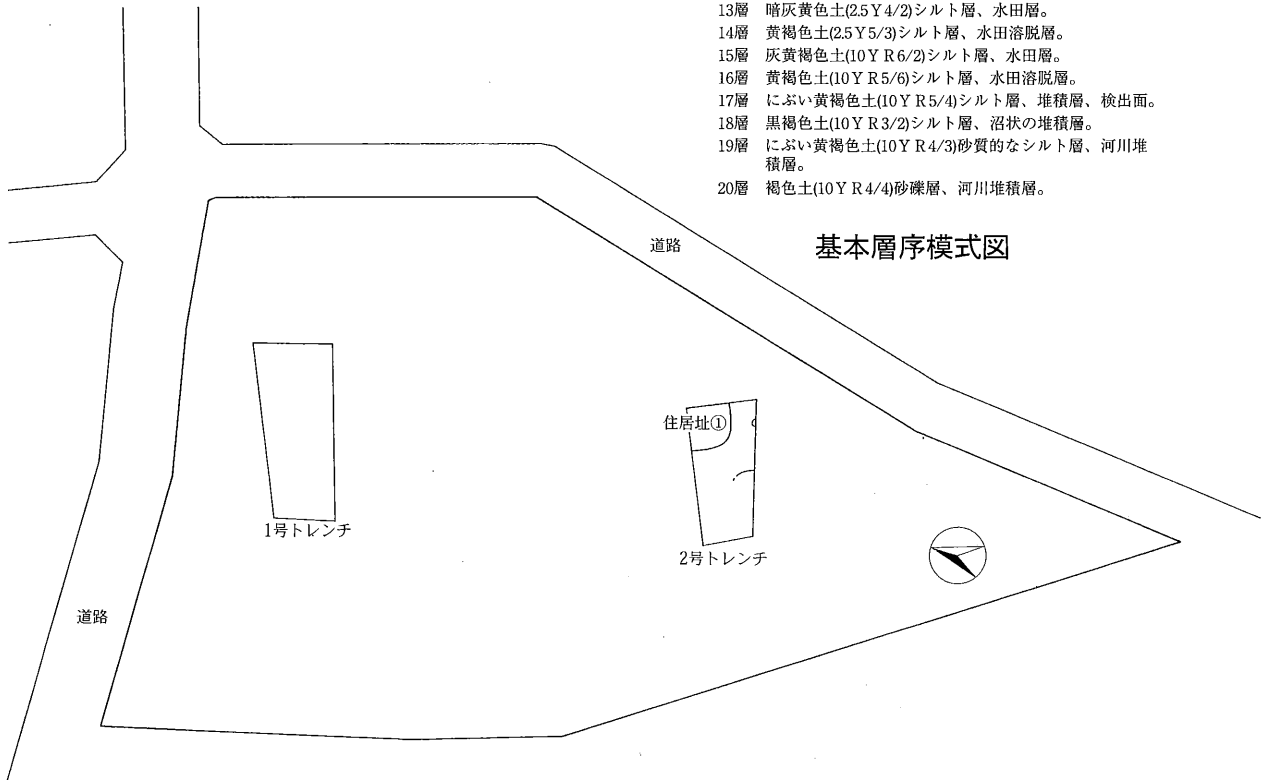
遺物は、縄文時代と古代の土器片が数点出土した。

今回の駐車場造成事業では、現況土留め擁壁レベルに合わせて盛土を行う計画であるので、本事業によって遺跡が破壊される可能性はないと考えられ、盛土保存ということで、遺跡を保護する事となった。



上五明奈里水田址土層説明

- 1層 灰色土(5Y5/1)粘質土、水田層。
- 2層 にぶい黄褐色土(10Y R6/3)粘質土、水田溶脱層。
- 3層 灰オリーブ色土(5Y6/2)シルト層、水田層。
- 4層 黄褐色土(10Y R5/6)シルト層、水田溶脱層。
- 5層 暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト層、水田層。
- 6層 にぶい黄褐色土(10Y R6/4)シルト層、水田溶脱層。
- 7層 灰オリーブ色土(5Y5/2)シルト層、水田層。
- 8層 明黄褐色土(10Y R6/6)シルト層、水田溶脱層。
- 9層 灰オリーブ色土(5Y5/2)シルト層、水田層。
- 10層 明黄褐色土(10Y R6/6)シルト層、水田溶脱層。
- 11層 暗灰黄色土(2.5Y R5/2)シルト層、水田層。
- 12層 にぶい黄褐色土(10Y R4/3)シルト層、水田溶脱層。
- 13層 暗灰黄色土(2.5Y4/2)シルト層、水田層。
- 14層 黄褐色土(2.5Y5/3)シルト層、水田溶脱層。
- 15層 灰黄褐色土(10Y R6/2)シルト層、水田層。
- 16層 黄褐色土(10Y R5/6)シルト層、水田溶脱層。
- 17層 にぶい黄褐色土(10Y R5/4)シルト層、堆積層、検出面。
- 18層 黒褐色土(10Y R3/2)シルト層、沼状の堆積層。
- 19層 にぶい黄褐色土(10Y R4/3)砂質的なシルト層、河川堆積層。
- 20層 褐色土(10Y R4/4)砂礫層、河川堆積層。



基本層序模式図

試掘トレンチ設定図 (1:600)

むらかみ し じょうかんせき
9 村上氏城館跡 I

所在地 坂城町大字坂城1148
事業主体 宗教法人満泉寺
事業名 本堂・庫裏建て替え
調査期間 平成18年9月25日～
平成18年10月10日
面積 740㎡ (188㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

村上氏城館跡は、坂城町坂城に所在し、日名沢川によって形成された扇状地の扇中央部に所在し、標高418m内外を測る。本遺跡は中世に国人領主として活躍した村上義清の居館とされる。昭和49年に葛尾山頂にある葛尾城跡と本遺跡の村上氏館跡を一つのセットとして、村上氏城館跡として県史跡に指定されている。

平成7年度には宅地造成に伴って試掘調査が同遺跡内で行われ、土坑や溝を多数検出した。平成9年度は満泉寺の庫裏建設に伴って行われ、土坑十数基が検出されカワラケ片が多数出土した。

今回、宗教法人満泉寺による本堂・庫裏の建て替えが計画され、県史跡の現状変更申請が提出され、遺跡の状況を確認することを目的として、試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、村上氏館跡として県史跡に指定されている範囲の中央部分にあたる。村上氏館跡に満泉寺が建立されたという言い伝えや、現在の地割などから推測しても館の中央付近と目される場所である。

試掘は建物の建築予定部分に三箇所トレンチを掘削して行った。各トレンチで土層の堆積状況は異なっているが、どのトレンチでも中世末の満泉寺（江戸時代後期焼失）の建立



試掘調査位置図 (1:2500)



1号トレンチ検出状況 (南東より)



2号トレンチ検出状況 (東より)

に伴って削平が行われており、村上氏が在館当時の生活面は確認できなかった。

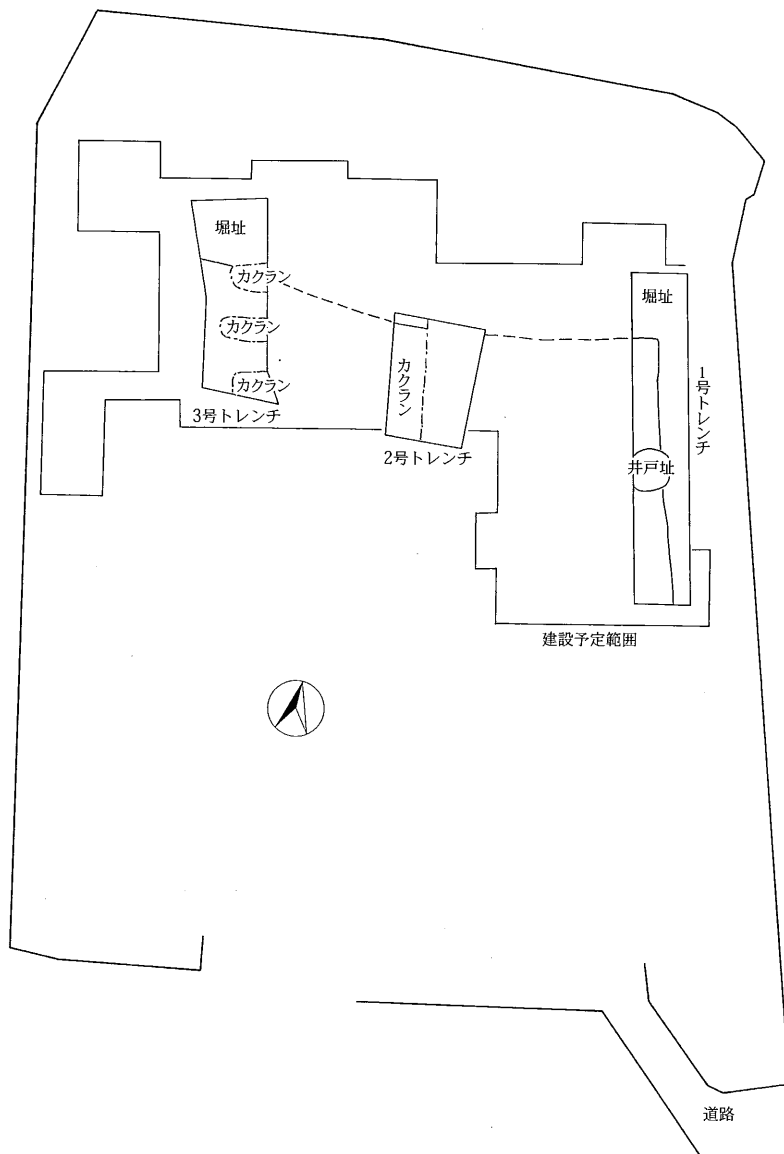
1号トレンチは建築予定範囲の東端に設定したトレンチである。トレンチ北端付近でコーナーを持つ、東西・南北に伸びる溝状遺構を検出した。また、この溝が埋没した後にこの覆土を切って掘り込まれた井戸址が検出された。

2号トレンチは建築予定範囲の中央付近に設定したトレンチである。北端部で1号トレンチから連続する溝の立ち上がりを検出した。全体的に攪乱が深く及んでおり状況は不良であった。

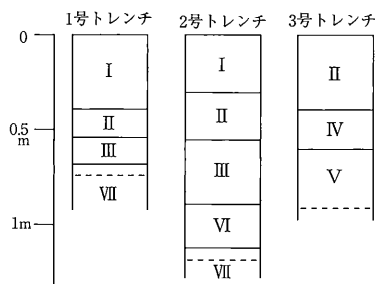
3号トレンチは建築予定範囲の東端付近に設定したトレンチである。北端部で2号トレンチから連続する溝の立ち上がりを検出した。2号トレンチ同様に全体的に攪乱が深く及んでおり状況は不良であった。

今回の調査では遺物の出土がほとんど無かったが、溝と井戸の切りあい関係や解体前の満泉寺の状況から、井戸址を焼失前の満泉寺の遺構、溝址を村上氏の館に伴う堀の跡と判断するに至った。

当該計画地は軟弱地盤のため、基礎工事によって遺構が破壊されることが避けられないため、発掘調査を実施して記録保存を行うこととなった。



試掘トレンチ設定図 (1:500)



- I層 褐色土(10Y4/6)粘質層、攪乱層。
- II層 ぶい黄褐色土(10YR5/4)焼土粒・炭化粒を含む粘質土、焼失後満泉寺盛り土層。
- III層 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒・炭化粒・カワラケ片を含む粘質土、焼失後満泉寺盛り土層。
- IV層 黄灰色土(2.5Y6/79)粘質土、堀の堆積層。
- V層 暗灰黄色(2.5Y4/2)炭化物を含むシルト層、堀の堆積層。
- VI層 灰黄褐色土(10YR5/29)地下水流の影響を受けたと思われる礫層、地山層。
- VII層 黄褐色土(10YR5/6)地山層。

基本層序模式図

10 ひなざわいせきぐん 日名沢遺跡群 1

所在地 坂城町大字坂城栗田1854-2 他
事業主体 積水ハウス（株）長野支店
事業名 宅地造成
調査期間 平成18年10月10日～
平成18年10月11日
面積 1,014㎡（42㎡）
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

日名沢遺跡群は坂城町大字坂城に所在し、標高400～423m内外を測る。宮沢川、日名沢川によって形成された複合扇状地の扇端部にあたる。「坂城町遺跡分布図」によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられている。また、遺跡内には式内社坂城神社、中世の村上氏館跡が所在し、近世には北国街道の街道筋が存在するなど、弥生～近世にいたるまで人々の営みが垣間見られる地域である。

当該遺跡に近接する県史跡「村上氏城館跡」では過去に調査が行われ、縄文時代～中近世にいたる遺構・遺物が発見されている。

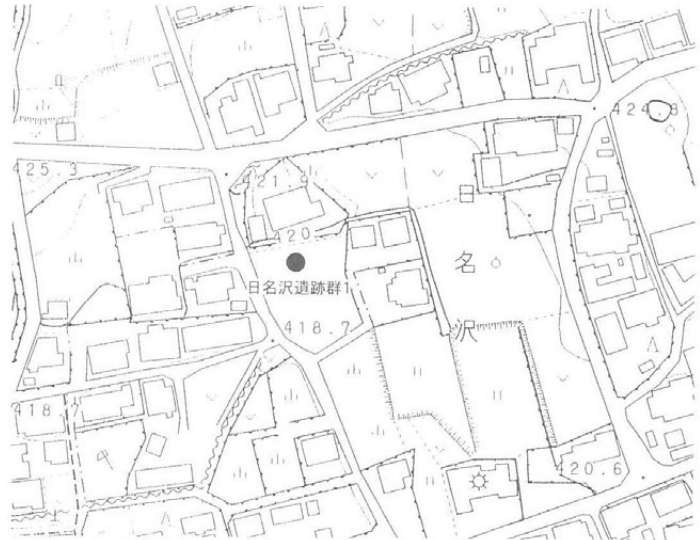
今回、積水ハウス株式会社長野支店による分譲宅地造成が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、南西方向に広がる緩やかな斜面地に位置している。長く水田として利用され、その後放置されていたようであるが、調査時には滞水した状態であった。

試掘トレンチは土留め擁壁工部分に沿う形で計画したが、掘削は当該計画地の中央部の一箇所にとどまった。

試掘調査の結果、地表下約1.5mで水田溶脱層下に滞積していた黒色粘質シルト層を検出した。この層中からは樹枝や樹根などの自然植物遺体が多く包含されており、長く沼状



試掘調査位置図（1：2500）

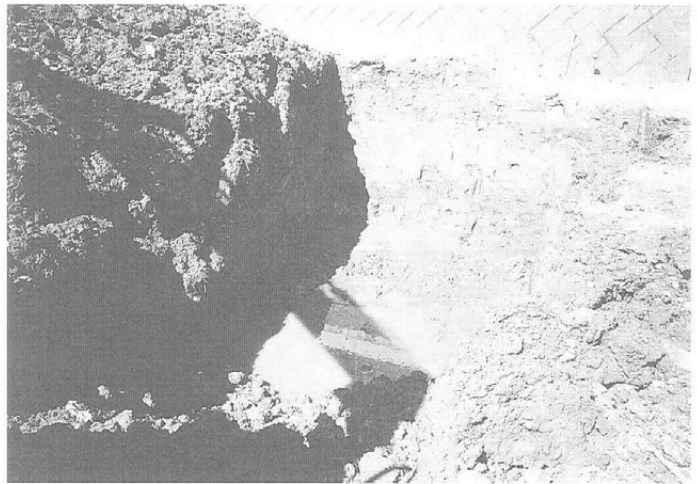


トレンチ掘削状況（北より）

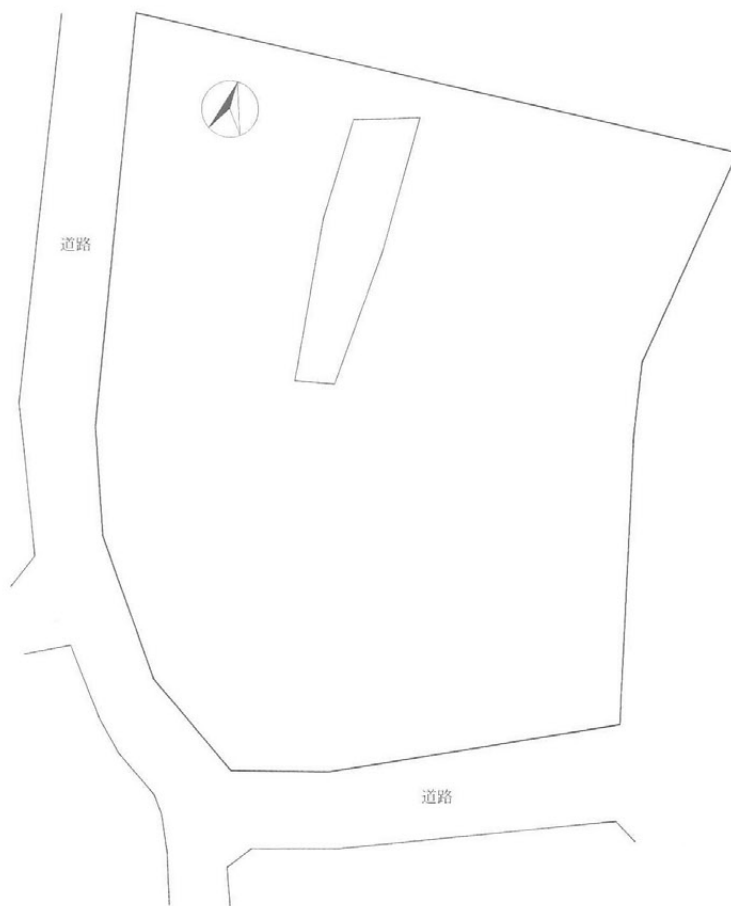


トレンチ検出状況（南より）

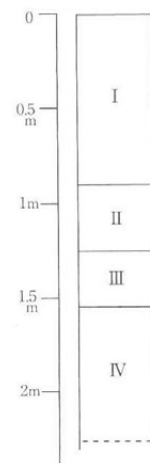
地であったことが推察された。この沼状地の立ち上がりが検出されなかったことや、滞積層中から人工遺物の出土が皆無であったこと、並びに敷地全体が水はけの悪い土地であることなどから総合的に、当該計画地に遺構は存在しないものと判断して試掘調査を終了した。



トレンチ基本層序 (南より)



試掘トレンチ設定図 (1:400)



- I層 黒褐色土(10YR2/2)、宅地造成土層。
- II層 暗灰黄色土(2.5Y5/2)粘質土、水田耕作層。
- III層 褐色土(10YR4/4)粘質土、水田溶脱層。
- IV層 黒色土(10YR2/1)礫・植物遺体を多く含むシルト層、沼状地形堆積層。

基本層序模式図

11 込みやまいせきぐん 込山遺跡群 1

所在地 坂城町大字坂城字辻6023-1
事業主体 株式会社カヤマ
事業名 駐車場造成
調査期間 平成18年12月5日～
平成18年12月6日
面積 1,117㎡ (180㎡)
担当者 助川 朋広

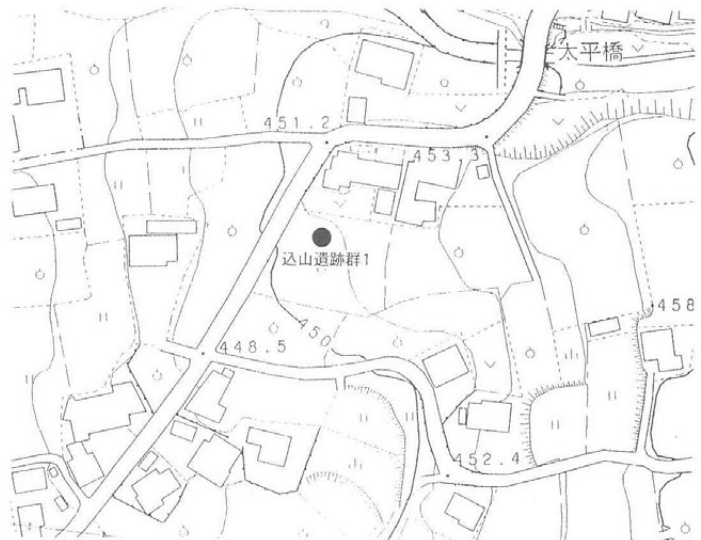
遺跡の環境と調査にいたる経緯

込山遺跡群は込山A～E遺跡等で構成される遺跡群である。また、同遺跡群内には9世紀初頭の寺院址とされる込山廃寺があり、昭和28年に坂城小学校の校庭を拡張した際に礎石や古瓦が出土した。

込山B遺跡では平成11年度と13年度に町営住宅の建設に伴って発掘調査が実施されており、平成11年度の調査では、弥生時代中期の住居址や土器が確認されたほか、奈良・平安時代の住居址が検出されている。また、布目瓦も出土しており、この調査地点の南にあったとされる込山廃寺と何らかの関連のあった集落が存在していたことが判明している。また、平成13年度の調査では鉸具が出土している。

込山C遺跡では平成12年度、13年度と16年度に坂城町教育委員会による発掘調査が行われているほか、昭和36年に縄文時代中期の土器を伴う配石遺構が検出されたことが報告されている。坂城保育園建設に伴い平成12年度に実施された込山C遺跡の調査では、町内では初出となった縄文時代前期の竪穴住居址が検出されたほか、奈良・平安時代の竪穴住居址が検出されている。また、布目瓦も出土していることから、平成11年度の込山B遺跡の調査結果と同様に込山廃寺との関連が窺い知ることができる。

また、鉄の展示館建設に伴って平成13年度



試掘調査位置図 (1 : 2500)



2号トレンチ掘削状況 (東より)



1号トレンチ検出状況 (西より)

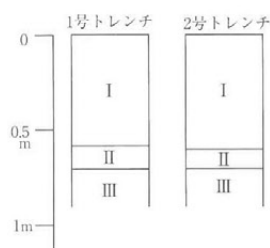
に実施された込山C遺跡Ⅱの調査では、弥生時代後期や古墳時代中期の竪穴住居址が検出されている。平成16年度に実施された込山C遺跡Ⅲの調査でも弥生時代の住居址が検出されている。

込山D遺跡では平成17年度に発掘調査が行われたが、現在整理中である。

今回、株式会社カヤマによる駐車場造成事業が計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。



2号トレンチ検出状況（西より）



- I層 濃い黄褐色土(10YR5/4)粘質層、礫・焼土粒・炭化粒を含む。耕作層。
- II層 褐色土(10YR4/4)粘質層、礫・焼土粒・炭化粒を含む。古い耕作層。
- III層 黄褐色土(10YR5/6)弱粘質層、礫を多く含む。地山層。

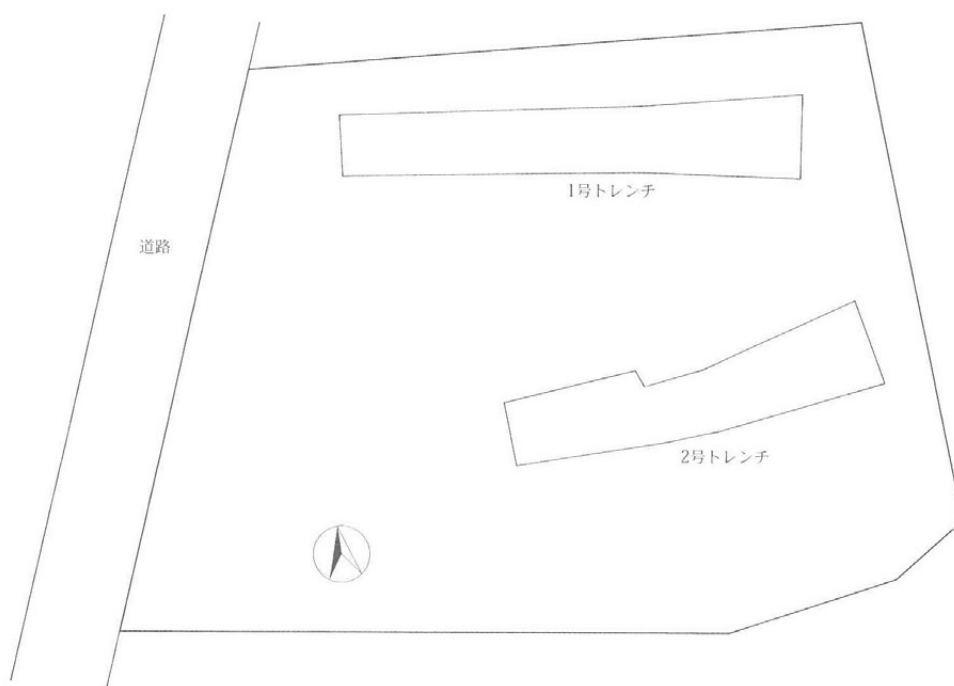
基本層序模式図

調査の成果

今回の計画地は、南西方向に開けた緩やかな斜面の中央付近に位置している。試掘トレンチは2箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、地表下約0.7mで黄褐色の地山層を検出したが、掘り込みなどの遺構は検出されなかった。また、表土掘削中に古代の所産と思しき土師器片・須恵器片が数点出土した。

以上のことから、本調査地点は込山遺跡群の一部ではあるが、遺構は存在しないものと判断した。



試掘トレンチ設定図（1：400）

12 ひなざわいせきぐん 日名沢遺跡群 2

所在地 坂城町大字坂城字山寺1051
事業主体 大宮区
事業名 公民館建設
調査期間 平成18年12月7
面積 367㎡ (53㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

日名沢遺跡群は坂城町大字坂城に所在し、標高400～423m内外を測る。宮沢川、日名沢川によって形成された複合扇状地の扇端部にあたる。「坂城町遺跡分布図」によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられている。また、遺跡内には式内社坂城神社、中世の村上氏館跡が所在している。

当該遺跡内における試掘調査例は多くないが、近接する県史跡「村上氏城館跡」では過去に数回調査が行われ、縄文時代～中近世にいたる遺構・遺物が発見されている。

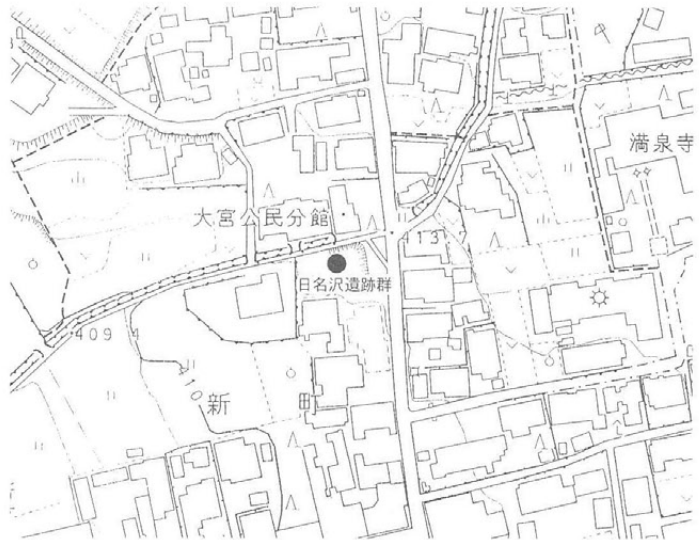
今回、大宮区による公民館建設が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、西流する宮沢川の南側に位置している。村上氏館跡の外堀に掛けられた橋であるとの言い伝えのある『御堀橋』の近接地である。

調査の結果、地表下約0.8mで黄褐色の地山層を検出した。この地山層を検出面とする土坑状の掘り込みが1基検出された。南側は調査区外に伸びており全体の形状は不明であるが、概ね円形を呈すものと思われる。覆土は極めて粘性の強いシルト層で、時間をかけて水成堆積していったものと思われる。

今回の事業では、周辺道路などのレベルに合わせて盛土を行う計画であるので、盛土保存ということで、遺跡を保護する事となった。



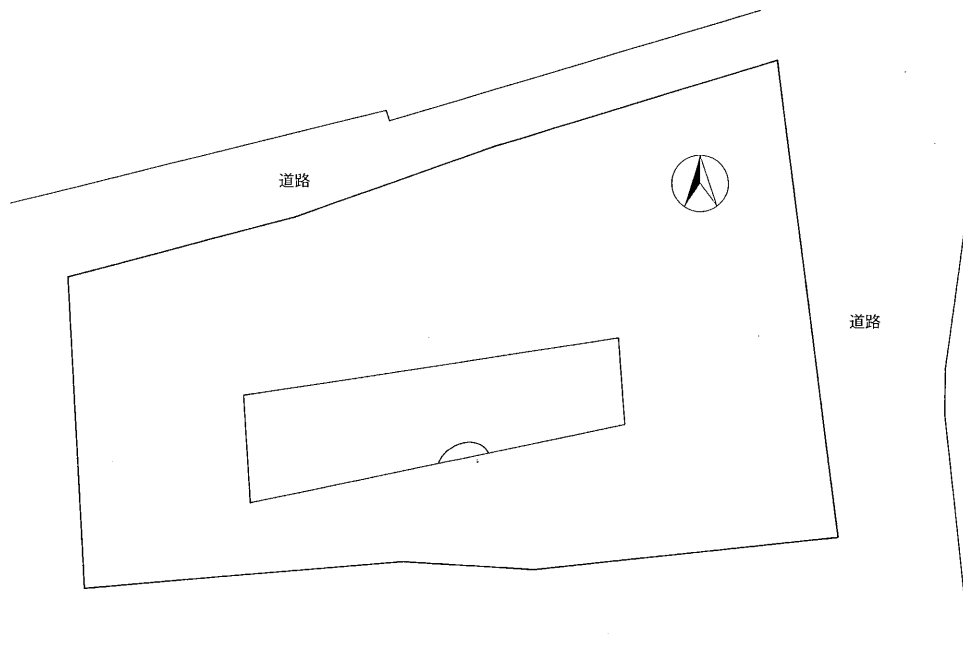
試掘調査位置図 (1:2500)



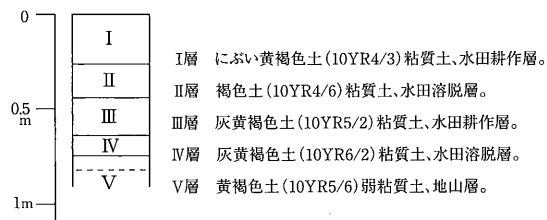
トレンチ掘削状況 (西より)



トレンチ検出状況 (西より)



試掘トレンチ設定図 (1:300)



基本層序模式図

みなみじょう いせきぐん
13 南条遺跡群5

所在地 坂城町大字南条字青木下634-1 他
 事業主体 塚田 充
 事業名 診療所建設
 調査期間 平成19年2月1日
 面積 1,434㎡ (116㎡)
 担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

南条遺跡群は坂城町大字南条に所在する遺跡群である。これらの遺跡は千曲川右岸の沖積地に所在し、千曲川によって形成された自然堤防や後背湿地に立地している。本遺跡群内では過去に、祭祀遺跡として注目される青木下遺跡や古代の集落址の東裏遺跡、弥生時代後期の集落址の塚田遺跡が発掘調査されている。平成元年度に作成された「坂城町遺跡分布図」によると南条遺跡群は、弥生時代～平安時代までの集落址とされている。

今回、塚田充氏による診療所建設事業が計画され、試掘調査を実施する事となった。

調査の成果

対象地において試掘トレンチを設定し遺構の有無を確認した。調査の結果、地表下約0.9mにて古代の水田址を検出した。本水田層は仁和4（888）年に起きたとされる千曲川の大洪水によって埋没しているもので、洪水氾濫砂層によって畦畔なども良好に残存していた。

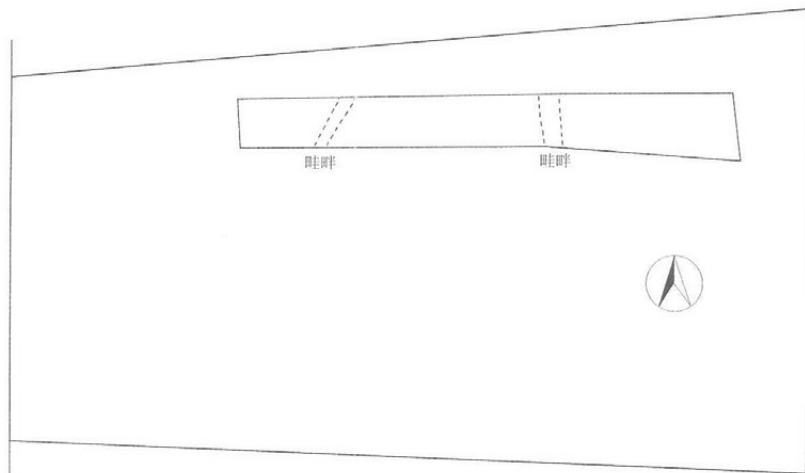
今回の対象地は盛土を施し遺構を保護するとして調査を終了した。



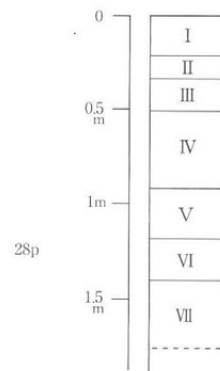
試掘調査位置図 (1:2500)



トレンチ検出状況 (東より)



試掘トレンチ設定図 (1:500)

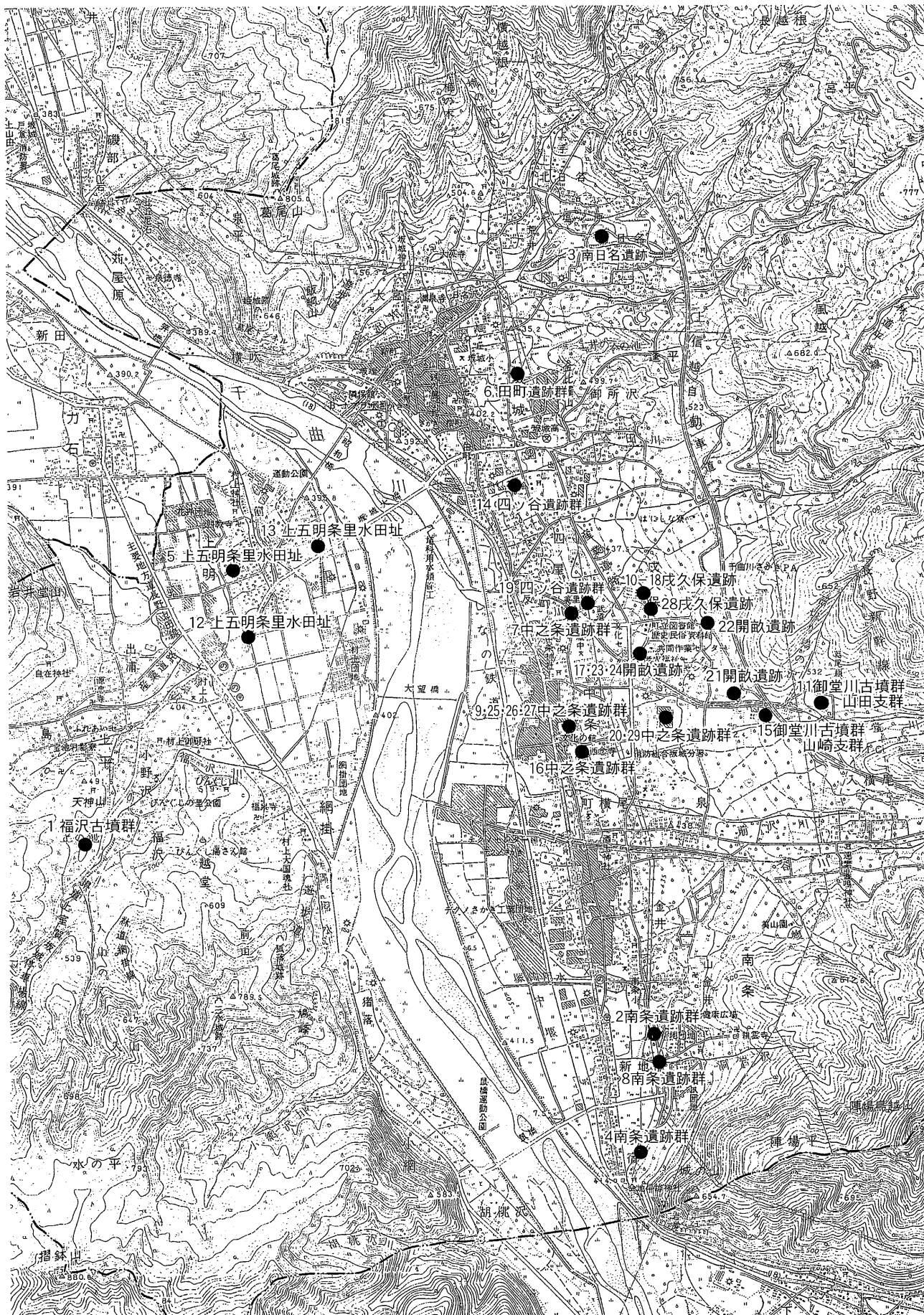


- I層 灰黄褐色土(10Y R4/2)粘質土、水田溶耕作層。
- II層 にぶい黄褐色土(10Y R4/3)粘質土、水田床土層。
- III層 黒褐色土(10Y R2/2)シルト、旧水田耕作層。
- IV層 褐色土(10Y R4/4)砂質層、氾濫砂層。
- V層 灰黄褐色土(10Y R4/2)粘質土、古代水田層。
- VI層 黒色土(10Y R2/1)シルト、古代以前の水田層。
- VII層 褐灰色土(10Y R4/1)シルト、古代以前の水田層。

基本層序模式図

第Ⅲ章 立会い調査の結果

No.	遺 跡 名	開発主体者	所 在 地	開発事業名	開発面積 (m ²)	調 査 期 間
1	福沢古墳群	長野地方事務所	上平	ため池改修	3,652	H18年8月25日～H19年3月10日
2	南条遺跡群	坂城町建設課	南条	道路改修	1,600	H18年7月1日～H19年3月31日
3	南日名	N T T ドコモ	坂城字扇田	アンテナ建設	4	H18年6月1日～H18年9月30日
4	青木下遺跡	上田水道管理事務所	南条字南条	水道管敷設	6	H18年6月1日～H18年8月1日
5	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	上五明字影田	水道管敷設	40	H18年6月15日～H18年7月28日
6	田町遺跡群	上田水道管理事務所	坂城字岡ノ原	水道管敷設	37	H18年6月1日～H18年8月30日
7	中之条遺跡群	千曲建設事務所	四ツ屋	道路改修	20	H18年6月1日～H18年8月30日
8	南条遺跡群	千曲建設事務所	南条字北押出	河川改修	100	H18年6月1日～H18年9月29日
9	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条字東町	水道管敷設	136	H18年7月3日～H18年8月29日
10	戌久保遺跡	上田水道管理事務所	大字坂城字戌久保	水道管理設	162	H18年7月3日～H18年8月25日
11	御堂川古墳群山田支群	(株) 岡田製作所	中之条字山田	工場建設	7,576	H18年8月10日～H18年9月30日
12	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	網掛	水道管敷設	18	H18年8月28日～H19年3月28日
13	上五明条里水田址	千曲建設事務所	上五明	道路改修	100	H18年10月2日～H19年1月29日
14	四ツ屋遺跡群	上田水道管理事務所	坂城字四ツ屋	水道管敷設	104	H18年9月25日～H18年11月22日
15	御堂川古墳群山崎支群	N T T ドコモ	中之条字山崎	アンテナ建設	4	H18年12月1日～H19年1月31日
16	中之条遺跡群	坂城町都市・下水道課	中之条	下水道管敷設	1,200	H18年12月18日～H19年5月31日
17	開畝遺跡	坂城町都市・下水道課	中之条	下水道管敷設	1,000	H18年12月18日～H18年5月31日
18	戌久保遺跡	坂城町都市・下水道課	坂城	下水道管敷設	1,300	H18年12月18日～H18年5月31日
19	四ツ屋遺跡群	上田水道管理事務所	坂城字四ツ屋	水道管敷設	20	H19年1月22日～H19年3月30日
20	中之条遺跡群	オリンパス(株)	中之条	汚染土壌清浄化	246	H18年12月5日～H19年1月20日
21	開畝遺跡	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	72	H19年2月5日～H19年3月23日
22	開畝遺跡	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	38	H19年2月5日～H19年3月23日
23	開畝遺跡	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	183	H19年1月22日～H19年3月23日
24	開畝遺跡	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	345	H19年1月22日～H19年3月23日
25	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	622	H19年1月22日～H19年3月23日
26	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	206	H19年2月19日～H19年3月23日
27	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	204	H19年2月19日～H19年3月23日
28	戌久保遺跡	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	260	H19年1月22日～H19年3月23日
29	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	208	H19年1月22日～H19年3月23日



立会い調査位置図 (1 : 25,000)

報告書抄録

ふりがな	さかきちやうないいせきはくつちやうさほうこくしょ
書名	坂城町内遺跡発掘調査報告書 2006
副書名	平成18年度試掘・立会い調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第29集
編著者名	助川 朋広・時信 武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2222 TEL0268-82-1109
発行年月日	2007年3月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
出浦遺跡 2	坂城町大字上平	20521		36°26'58"	138°10'00"	2006年5月13日 2006年5月14日	42	工場建設
御堂川古墳群山田支群 1	坂城町大字中之条	20521		36°26'55"	138°12'05"	2006年4月19日 2006年4月20日	106	集合住宅建設
田町遺跡群 6	坂城町大字坂城	20521		36°27'54"	138°11'16"	2006年4月24日 2006年4月25日	137	集合住宅建設
宮上遺跡 2	坂城町大字中之条	20521		36°27'06"	138°11'24"	2006年5月16日 2006年5月17日	62	駐車場造成
四ツ屋遺跡群 11	坂城町大字坂城	20521		36°27'33"	138°11'16"	2006年5月16日 2006年5月17日	62	道路改良事業
宮上遺跡 3	坂城町大字中之条	20521		36°27'05"	138°11'26"	2006年8月7日	32	倉庫建設
町横尾遺跡Ⅲ	坂城町大字南条	20521		36°26'31"	138°11'40"	2006年8月17日 2006年8月18日	144	道路改良事業
上五明条里水田址 17	坂城町大字出浦	20521		36°27'09"	138°09'53"	2006年8月29日 2006年8月30日	139	駐車場造成
村上氏城館跡Ⅰ	坂城町大字坂城	20521		36°28'05"	138°10'55"	2006年9月25日 2006年10月10日	188	本堂・庫裏建て替え
日名沢遺跡群 1	坂城町大字坂城	20521		36°28'07"	138°10'56"	2006年10月10日 2006年10月11日	42	宅地造成
込山遺跡群 1	坂城町大字坂城	20521		36°28'05"	138°11'21"	2006年12月5日 2006年12月6日	180	駐車場造成
日名沢遺跡 2	坂城町大字坂城	20521		36°28'02"	138°10'50"	2006年12月7日	53	公民館建設
南条遺跡群 5	坂城町大字南条	20521		36°25'43"	138°11'44"	2007年2月1日	116	診療所建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
出浦遺跡 2	集落址	弥生～平安	なし	なし	
御堂川古墳群山田支群 1	古墳	古墳	なし	なし	
田町遺跡群 6	散布地	縄文～平安	竪穴住居址、土坑址、ピット	縄文土器・土師器	
宮上遺跡 2	集落址	縄文～中世	土坑址	縄文土器	
四ツ屋遺跡群 11	集落址	縄文～中世	なし	なし	
宮上遺跡 3	集落址	縄文～中世	住居址?	縄文土器	
町横尾遺跡Ⅲ	集落址	縄文～平安	竪穴住居址、土坑址、ピット	土師器 (奈良～平安)	
上五明条里水田址 17	生産遺跡、集落址	奈良～近世	竪穴住居址、土坑址、ピット	土師器 (奈良～平安)	
村上氏城館跡Ⅰ	城館跡	中世	堀址	カワラケ	
日名沢遺跡群 1	集落址	弥生～平安	なし	なし	
込山遺跡群 1	集落址	縄文～平安	なし	なし	
日名沢遺跡群 2	集落址	弥生～平安	土坑址	土師器 (奈良～平安)	
南条遺跡群 5	集落址	縄文～平安	水田址	なし	

坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』(概報)	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戌久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊饒堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集	『込山遺跡群 込山C遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2006
第28集	『込山遺跡群 込山D遺跡Ⅰ』	2007
第29集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2006』(本書)	2007

発行日 2007年3月30日

編集者 坂城町教育委員会

〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2222

TEL 0268 (82) 1109

印刷者 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田1-30-1

TEL 026 (243) 2105

